

2017年6月5日

各 位

会 社 名 コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社
代 表 者 代表取締役社長 吉 松 民 雄
(コード番号 2579 東証第一部、福証)
問 合 せ 先 執 行 役 員
コ ー ポ レ ー ト 岡 本 繁 樹
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン
統 括 部 長
(Tel. 03-6896-1707)

中期事業計画ならびに2017年12月期業績予想および配当予想に関するお知らせ

当社は本日、2020年までの中期事業計画「Growth Roadmap for 2020 & beyond」ならびに2017年2月6日に公表いたしました「平成28年12月期 決算短信（旧コカ・コーラウエスト株式会社発表）」において決定次第公表することとしておりました、2017年12月期の業績予想および配当予想について決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 「Growth Roadmap for 2020 & beyond」の概要

「Growth Roadmap for 2020 & beyond」は、当社の持続的成長と経営統合によるシナジー効果創出を目標とし、収益を伴う売上高の成長、統合シナジーの創出、株主価値向上を実現するオペレーションモデルと財務戦略の確立、人材育成への投資と地域社会への貢献を重点項目として注力してまいります。

これにより、2020年までに売上高を年平均1.8%増加させ、数量シェアを上回る金額シェアの拡大を目指し、小容量・即時消費パッケージを成長させ、金利・税金・償却前利益、支払利息・税金・減価償却・償却控除前利益（EBITDA）マージンは10%以上、自己資本利益率（ROE）は6%以上を目指すとともに、累計250億円の統合シナジー効果の創出を目指します。

2. 2017年12月期業績予想

(1) 2017年12月期 連結業績予想（2017年1月1日～2017年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株あたり当期純利益
2017年12月期 連結業績予想	百万円 906,500	百万円 40,100	百万円 38,100	百万円 21,500	円 122.85
前期実績（注） （2016年12月期）	460,455	21,143	20,602	5,245	48.05
対前期比増減率（注）	96.9%	89.7%	84.9%	309.9%	

（注）旧コカ・コーラウエスト株式会社の実績およびそれに対する増減率。

(2) 業績予想の概況

上記1.にて策定した「Growth Roadmap for 2020 & beyond」および経営統合後の業績動向を踏まえ、通期業績予想を上記のとおりといたしました。上記予想は統合前の旧コカ・コーラウエスト株式会社の第1四半期（1月1日～3月31日）の実績に、当社の第2四半期以降の業績予想を加えたものです。

3. 配当予想

旧コカ・コーラウエスト株式会社における配当については、積極的な利益還元を行うことを利益配分に関する基本方針としながら、安定的に配当を行うことを最優先としてきました。

この考え方に沿うと共に上記2.の業績予想を踏まえ、2017年12月期の配当金につきましては、2016年12月期の旧コカ・コーラウエスト株式会社およびコカ・コーライーストジャパン株式会社の1株あたり配当額（記念配当を除く）から減額としない配当額といたします。これにより、中間配当金は1株あたり22円、期末配当金は1株あたり22円、年間では1株あたり44円とさせていただく予定です。

	1株あたり年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
今回発表予想	円 銭 —	円 銭 22.00	円 銭 —	円 銭 22.00	円 銭 44.00
前期実績（注） （2016年12月期）	—	22.00	—	24.00	46.00

(注)旧コカ・コーラウエスト株式会社の実績であり、また、記念配当（第2四半期末1円00銭、期末1円00銭、合計2円00銭）を含んでおります。

なお、本日発表いたしました「Growth Roadmap for 2020 & beyond」ならびに2017年12月期業績予想および配当予想を含む、当社の経営方針、事業戦略、事業計画等の証券アナリスト・機関投資家向け説明会を2017年6月6日（火）13時30分より開催いたします。

説明会の模様は当社のIRホームページ（<https://www.ccbji.co.jp/ir/>）からライブまたはオンデマンドで聴取いただけ、また、資料は説明会当日IRホームページに掲載いたします。

上記の「Growth Roadmap for 2020 & beyond」で示した目標ならびに業績予想は、現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により公表値と異なる可能性があります。

以 上